



● 高齢者のための市民農園 ●

中野区の住宅地にある高齢者農園

近所の市民農園で 仲間と楽しむシニアライフ

❖……………生きがい菜園（東京都小平市）・高齢者農園（東京都中野区）

■ 高齢者向け市民農園状況

これまで郊外型が中心の市民農園だったが、近年の都市住民の多様化するニーズに対応し、都市型農園の人気が高まってきている。現役世代が実用性を兼ねたレクリエーションとして野菜づくりを楽しむ一方で、団塊世代のリタイア層では、新たな生きがいとして農を始めるケースも多くみられる。土にふれる生活に憧れるが、田舎暮らしは

ハードルが高い。しかし、市民農園であれば自宅から通えて野菜がつかれ、適度な運動にもなる。少子高齢化社会を迎え、高齢者の市民農園入園希望者は、ますます増えてきている。

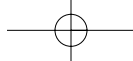
これらの背景を受け、一般市民農園とは別に、行政高齢福祉部門が開設する高齢者向け（60歳以上に限定）市民農園が、東京都西部地域の各地（国立市、三鷹市ほか）で展開されている。ここでは、小平市の「生きがい菜園」と、

中野区の「高齢者農園」について取り上げる。

■ 農園の開設の経緯

小平市の場合

生きがい菜園（市内2カ所、209区画、1区画約10m²）は、市内に住む60歳以上の高齢者を対象に個人利用を目的とした農園である。1972年に開始された事業で、1975年に国の「老人のための明るいまちづくり推進事業（全国9事



いきいきと作業するかみさぎ農園の皆さん。30年以上続く人気の農園である（中野区）



業)」として、位置づけられ、現在に至っている。

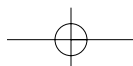
中野区の場合

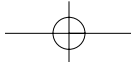
中野区の高齢者農園（区内3カ所、合計約2038m²）は、中野区が区民の要望を受けて、1976年に当時の高齢者担当が高齢者向け市民農園開設のためのアンケートを実施した。その結果、①花・野

菜、②盆栽、③植木の希望があった。またこの時、土地に親しみながら園芸技術を習得し健康保持と仲間づくりに役立つことを願い、グループ貸しによる募集を実施。共同作業を原則とし、アンケートで希望があった、花・野菜、盆栽、植木の3作業に分けて開設し、今年で34年目を迎えている。

■ 高齢者の農園活動

小平市生きがい菜園は、一般の市民菜園と同様に、借り受けた人に作付けや管理を任せている。行政は、区画を越境して作物を植えていないか定期的な巡回程度の見守りだけでよく、ほとんどが問題なく、秩序を守って菜園を楽





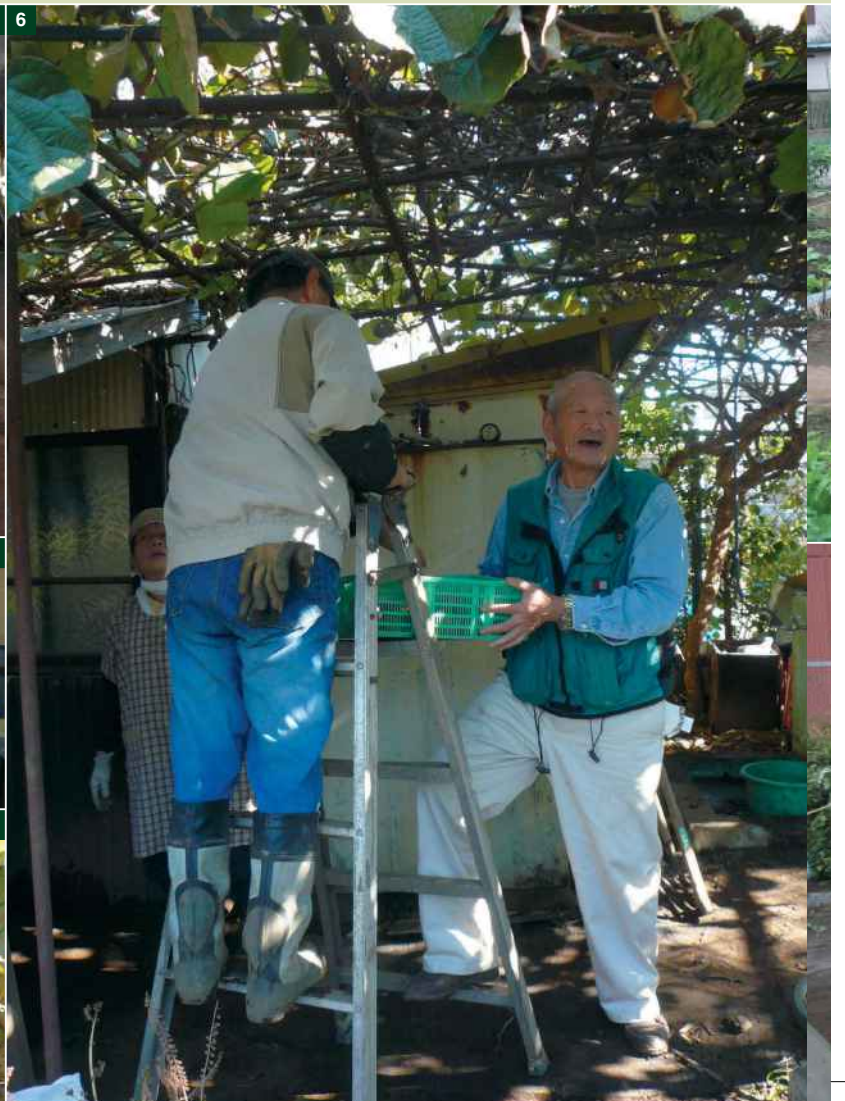
1

中野区「高齢者農園・かみさぎ農園」

1—慣れた手つきで畝をつくる 2,3,4—屋根のある休憩室は快適な作業スペース。畑仕事の後はお茶を飲みながらおしゃべりも 5,6—食べごろに実ったキウイを収穫



2 6





小平市「生きがい菜園」

上(4点) ●小川町一丁目生きがい菜園。すぐ隣を西武国分寺線が通る
下(4点) ●住宅地の中にある仲町生きがい菜園。きれいに区画された畑が並ぶ





春に向けてチューリップの球根を仕込む



チームワークのよさで、あっという間にミズナの畑は完成



自転車で通える近さも魅力の一つ



野菜のほか季節の花も育てている



札をひいて当たった番号の大根を持ち帰る

しんでいる。管理者としては、集積された草・枝残根などを定期的に搬出(委託)するだけだ。諸費用は、年間約14万円/年(清掃委託費が7万円/年、水道料金が6万円/年、事業用消耗品代が1万円/年)程度である。

■ 高齢者のレクリエーションの場となっている農園

中野区の高齢者農園の一つ「かみさぎ農園」の花・野菜グループの活動は、水曜日の午前中を定例作業日としており、取材したこの日は、35人中22人が出席した。この日の活動は次の通りである。

①9:00入園者は、それぞれ収穫する班、チンゲンサイの苗床を作る班、ネギ根元土寄せ班、チンゲンサイ苗用意と植え付け班、収穫物包装班、水遣り班そして収穫後の残根拾い・整地班と農園約600m²の全面に散らばり、皆、

実に手際よく、およそ2時間農作業にいそしむ。

②11:00から、併設の休憩室で懇談後、この日の収穫物(ダイコン、ネギ、ホウレンソウ、チンゲンサイ)を分け合い持ち帰る。グループ長の加地さんの考えで、水曜定例作業日の参加者全員が必ず収穫物を持ち帰るよう、年間作付け計画を立案している。

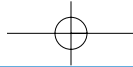
このほか、日常の水遣りなどはグループで随時当番を決めて行う。農作業において発生する残根などは、一切場外搬出せずにリサイクルを実践するなど環境活動にもつながっている。農作業で出る枝・残根類と、隣接する街区公園の枯葉を集め堆肥化する。さらに近接の大学馬術部より馬糞を肥料としてもらいうけるなどといった取り組みも行っている。

年間行事は、①4月に新規入園者歓迎会、②10月に中野まつりに収穫野菜

を出展(売上げは農園活動費などに充当)、行楽会(1泊旅行)③12、1月は忘年会・新年会がある。会の食材は、むろん農園で収穫したものを賞味する。高齢者農園が、単なる作業だけでなく、年間を通してレクリエーションの場となっている。

■ 市民(高齢者)の要請に応える事業の継続

小平市生きがい菜園は、借りている土地が、相続による返却理由で閉園したこともあるが、市民から無償で貸し付けられる土地を市が新たに探して開園してきた。ある年には、開設準備に水道設置のほか、区画割り(縄張り・測量)、食物を育てられるように土のほぐしを職員自ら行い開園に結びつけた。一般市民向け菜園(約10m² 3600円/年 715区画、約20m² 1万200円/年 269区画)と一体で市民に案内していて、



中野区高齢者農園・かみさぎ農園の皆さん

高齢者の応募も多い。生きがい菜園と一般菜園のダブル応募(ただし1区画)も可能な措置がされている。

■ 役割と今後の課題

行政として高齢者向け農園に比較的早期に取り組んできたことで、小平市における使用期間(一般2年、高齢3年)

や使用料(無料)について市民に理解が得られている。行政内部においても介護を直接必要としない大多数を対象とした、介護予防、レクリエーションの提供としての評価も高い。課題は、新規の入園希望者が多いにもかかわらず、容易に新たな土地が手当てできないことにある。

中野区高齢者農園の場合もグループ貸しとして、人数的に限界に近づきつつあるが、ほかに土地が手当てできないこともあり、担当はグループとの話し合いの中から増え続ける入園希望者に対して名案を考え中とのこと。将来的には平等性の確保から、抽選の導入もあるかもしれないと語る。

◆ プロジェクト概要 ◆

●小平市「生きがい菜園」

所在地: 東京都小平市小川町一丁目(小川町一丁目生きがい菜園)
東京都小平市仲町(仲町生きがい菜園)
区分: 市民農園
事業主体: 小平市
開設: 1972年
土地所有者等: 小川町一丁目菜園/市所有(土地所有者より寄付)
仲町菜園/借地(土地使用賃貸借契約)
* 相続発生などの場合は返還申出可能
管理等主体: 小平市高齢者福祉課
* 利用者管理と園内管理(水道、下水、残枝根類)は委託、修理費は市が負担
農園の特徴: 水道、トイレ、ゴミ集積場(荷車付)、農機具(少し)、ベンチ

■施設・利用概要■

農園: 小川町一丁目生きがい菜園/117区画、1区画約10m²、3年毎募集
* 前回応募倍率22/1(1.8倍)
仲町生きがい菜園/92区画、1区画約10m²、3年毎募集
* 前回応募倍率20/1(2.6倍)
申し込み資格: 申し込み時60歳以上の市民

使用期間: 約3年

使用料: 無料

連絡先: 小平市健康福祉部高齢者福祉課

TEL. 042-346-9642

<http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/003/003749.html>

●中野区「高齢者農園」

所在地: やよい農園/東京都中野区弥生町4-30
かみさぎ農園(本園)/東京都中野区上鷲宮5-30
かみさぎ農園(分園)/東京都中野区上鷲宮1-16
区分: 市民農園

事業主体: 中野区

開設: 1976年

土地所有者等: 土地使用賃貸借契約

* 相続発生などの場合は返還申出可能

管理等主体: 中野区保健福祉部高齢福祉担当

* 利用者管理と園内管理(水道)はグループの自主運営、修理費は区が負担

税優遇措置: 土地所有者の固定資産税は非課税

農園の特徴: 水道、ゴミ集積場、農機具(少し)、休憩室

■施設・利用概要■

農園: やよい農園/約1037m²
* 2010年度—花・野菜27人、盆栽植木26人(合計53人)
かみさぎ農園(本園)/約838m²(花・野菜、盆栽グループ)
かみさぎ農園(分園)/約433m²(植木グループ)
* 2010年度—花・野菜35人、盆栽17人植木8人(合計60人)

申し込み資格: 申し込み時60歳以上の区分、各農園での「一日体験入園」後に申し込む

作業及び運営: 花・野菜、盆栽、植木のグループ単位で使用。いずれかのグループに所属、グループ別に共同作業(個人での不可)。農園の管理運営は、各グループが協議し自主的に行う

使用期間: 毎年更新(抽選なし)

使用料: 1500円/年

連絡先: 中野区保健福祉部高齢福祉担当

TEL. 03-3228-5607

http://blog.livedoor.jp/saginomiya_job/archives/51540264.html

